



2012年4月石原社長定例記者会見概要

4月25日午後3時から、石原社長による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

<編成関連>

4月改編、ドラマはまずまずのスタートができたと思っている。日曜劇場『ATARU』が初回19.9%、2週目も16.9%と、この春のドラマの中ではトップの視聴率で好調にスタートした。また、5シーズン目に入った『ハンチョウ～警視庁安積班～』も3週連続で二桁を記録、『パパドル!』も今後に期待できるスタートだと思っている。

水曜日に復活した映画枠については、厳しい数字が続いているが、まだ認知度が低いことが要因の一つだと考えている。家族で楽しんでいただけるラインナップを用意しているので、じっくり周知徹底を図っていけば、視聴率を伸ばしていけるとと思っている。

バラエティについては、新番組がまだ始まったばかりだが、全体的に苦戦しているので、現場にはスピード感を持って企画強化に取り組むように指示しているところ。

単発では、期首のスペシャルドラマ『ブラックボード～時代と戦った教師たち～』を放送したが、時代時代の教育問題に真正面から取り組んだ作品として、多くの方から高い評価をいただいた。今後もこうしたメッセージがはっきりした番組制作に積極的に取り組んでいきたいと考えている。

<営業関連>

決算発表前なので詳細は控えるが、TBSのテレビ営業収入は、タイムが前年を僅かに割り込む見込みだが、スポットは前年の実績を僅かながら上回る見込みで着地しそうだ。

今年度2012年度の見通しだが、ネットタイムレギュラーセールスは、ほぼ前年並みの水準でスタートしたが、固定費を嫌う広告主の傾向は続いており、ローカルタイムのセールスは苦戦しているようだ。

一方スポットは、昨年の4月、5月は震災の影響で大きく落ち込んだので、その反動で今年は大幅な増加を見込んでいる。6月以降も、ほぼ前年並みに推移するのではないかと見ているが、問題は下期がどうなるかで、国内外の経済動向を見守りながら、必要に応じて機動的に対応していきたいと考えている。

<事業関連>

上野の国立科学博物館で開催中の、「インカ帝国展－マチュピチュ『発見』100年」は、春休みが終った後も来場者数は順調に伸びていて、先週の土・日には、入場規制をせざるを得ない状況だった。今週末には、20万人目のお客様をお迎えすることになりそうだ。このインカ展はじめシカン展、ナスカ展などを長年に亘り開催してきたが、4月19日にこれらの文化交流がペルーの観光にも寄与したということで、来日していたペルーの観光副大臣より感謝状をいただいた。

次に舞台関係だが、明日、東急電鉄がオープンする大型商業施設「渋谷ヒカリエ」の中の「東急シアターオーブ」の柿落としとして、TBSが3公演連続でミュージカルを上演することになった。7月にブロードウェイミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」、9月には「ミリオンダラー・カルテット」、そして10月にはフランス版ミュージカル「ロミオ&ジュリエット」を主催することになっている。

また、5年目を迎えた赤坂ACTシアターは累計で約146万9千人のお客様にお越しいただき好評をいただいているが、来月2日からは佐藤健、石原さとみ主演「ロミオ&ジュリエット」、6月には「サンセット大通り」、そして7月には坂東玉三郎演出の「打男」など、今後も幅広いジャンルの公演を行っていく。

<ラジオ関連> TBS R&C 入江社長

首都圏のレーティング調査では10年以上トップを重ね、ここ数年業績も堅調。この場をお借りして感謝申し上げたい。しかし、TBSラジオ固有に抱えている課題、ラジオ業界全体の課題は、ともに楽観は許されないと認識しており、TBSラジオらしさの追求、メディア価値向上に向けて努力する。またデジタルラジオへの取り組みは今年が正念場だと認識している。

営業面では、3月も2011年度通期においてもタイム・スポットともにネットワーク配分を除いた東京収入で予算・前年ともに上回る事ができた。全体として、営業利益も予算は上回る成績となる見込みだが、前年比では減収減益となる見込みである。今年度はかなり厳しいスタートとなっているが、2011年度の利益レベルを目指したいと考えている。

編成関連では、4月改編でスタートした番組が早く定着すること、そして新規リスナーを獲得できる番組となることを期待している。

以上